



2023年9月期 決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年11月9日

上場会社名 株式会社MTG 上場取引所 東
 コード番号 7806 URL <https://www.mtg.gr.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松下 剛
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 CFO (氏名) 吉高 信 TEL 052-307-7890
 定時株主総会開催予定日 2023年12月21日 配当支払開始予定日 2023年12月22日
 有価証券報告書提出予定日 2023年12月22日
 決算補足説明資料作成の有無：有
 決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2023年9月期の連結業績（2022年10月1日～2023年9月30日）

(1) 連結経営成績

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年9月期	60,154	22.8	3,597	11.1	4,168	11.9	1,984	△26.1
2022年9月期	48,984	14.5	3,238	△16.7	3,724	△11.6	2,685	△52.0

(注) 包括利益 2023年9月期 1,176百万円 (△45.7%) 2022年9月期 2,165百万円 (△60.8%)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2023年9月期	50.35	50.13	4.8	8.0	6.0
2022年9月期	68.50	68.22	6.8	7.7	6.6

(参考) 持分法投資損益 2023年9月期 ー百万円 2022年9月期 ー百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年9月期	54,449	42,712	77.0	1,063.78
2022年9月期	49,942	41,285	81.8	1,036.89

(参考) 自己資本 2023年9月期 41,932百万円 2022年9月期 40,845百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2023年9月期	2,686	△2,788	195	16,137
2022年9月期	1,879	△1,876	1,052	16,529

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2022年9月期	ー	0.00	ー	10.00	10.00	393	14.6	1.0
2023年9月期	ー	0.00	ー	10.00	10.00	394	19.9	1.0
2024年9月期(予想)	ー	0.00	ー	10.00	10.00		19.7	

3. 2024年9月期の連結業績予想（2023年10月1日～2024年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	67,000	11.4	3,400	△5.5	3,400	△18.4	2,000	0.8	50.74

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

新規 一社 (社名) 一
除外 一社 (社名) 一

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
② ①以外の会計方針の変更：無
③ 会計上の見積りの変更：無
④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年9月期	40,097,168株	2022年9月期	40,082,288株
② 期末自己株式数	2023年9月期	678,553株	2022年9月期	690,261株
③ 期中平均株式数	2023年9月期	39,406,151株	2022年9月期	39,204,313株

(参考) 個別業績の概要

2023年9月期の個別業績（2022年10月1日～2023年9月30日）

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年9月期	57,763	24.4	2,482	20.9	2,873	5.7	1,099	△50.5
2022年9月期	46,435	17.3	2,053	0.4	2,717	6.2	2,222	△50.9

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
2023年9月期	27.90	27.78
2022年9月期	56.68	56.45

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年9月期	48,710	38,501	79.0	976.74
2022年9月期	45,118	37,813	83.8	959.84

(参考) 自己資本 2023年9月期 38,501百万円 2022年9月期 37,810百万円

<個別業績の前期実績値との差異理由>

当社は当事業年度において、主にヘアケア商品の売上が増加したことにより、前事業年度の実績値と当事業年度の実績値との間に差異が生じております。

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料6ページ「1. 経営成績等の概況 (4) 今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	6
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	6
(4) 今後の見通し	6
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	6
3. 連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 連結貸借対照表	7
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	9
連結損益計算書	9
連結包括利益計算書	10
(3) 連結株主資本等変動計算書	11
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	13
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	14
(継続企業の前提に関する注記)	14
(セグメント情報)	14
(1株当たり情報)	16
(重要な後発事象)	16

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による影響の緩和により、社会経済活動の正常化が進む一方、金融政策等を背景とした世界的な資源価格の高騰、急速な為替相場の変動や物価の上昇、また地政学的にも不安定な状況が続く、依然として先行き不透明な状況が継続いたしました。

このような状況の中で、当社グループは、世界中の人々の人生をより美しく、より健康的に輝かせるためにHEALTH、BEAUTY、HYGIENE領域においてブランド及び商品の開発に取り組んでまいりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

なお、当連結会計年度より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前期比較については、前連結会計年度の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較分析しております。

①ダイレクトマーケティング事業

主な事業内容は、当社及び国内他社ECサイト、新聞を通じた一般消費者への直接販売及びインターネット通信販売・カタログ販売並びにテレビ通信販売事業者への卸売販売となります。

当連結会計年度の売上高は26,997百万円（前期比18.2%増）、経常利益は7,184百万円（前期比18.0%増）となりました。

ReFaブランドではReFa FINE BUBBLE SやReFa FINE BUBBLE PUREのシャワーシリーズが継続してご好評を頂いており、本体の販売伸長とともにReFa FINE BUBBLE PUREの浄水カートリッジの販売数も好調に推移しております。また、ReFa BEAUTECHシリーズのヘアケア商品や付随するリピート商品の販売においても継続して好調に推移いたしました。ブラシシリーズではReFa HEART BRUSHが安定して高い販売台数を推移している他、第3四半期連結会計期間に過去最高水準の予約注文となったReFa AILE BRUSHの販売が発売後も引き続き好調に推移しております。

SIXPADブランドでは敬老の日キャンペーンがご好評を頂き、SIXPAD Foot Fit Lightを中心に販売数を大きく伸ばすことができました。

MTG LIFEPLAN（月々定額・下取りサービス・きちんと保証）においても引き続き会員数が増加しております。

②プロフェッショナル事業

主な事業内容は、B happy サロン向けECプラットフォームでの取次販売、美容室運営事業者、エステティックサロン運営事業者への卸売販売、宿泊施設への設備販売、ショッピングセンター等での一般消費者への直接販売となります。

当連結会計年度の売上高は15,421百万円（前期比32.2%増）、経常利益は1,682百万円（前期比11.0%減）となりました。

020サロン向けプラットフォームサービスB happy（プラットフォーム上に設けた自店舗専用のオンラインショップより、店舗顧客に当社商品をいつでもお買い求め頂けるサービス）は、色やサイズが多いアイテム等もサロンが在庫負担なく販売できることからサロンに大変ご好評を頂いており、加盟店舗数は13,200店舗と順調に増加しております。

2023年9月に行ったサロン市場先行販売のReFa CURL IRON PRO、ReFa STRAIGHT IRON PRO、ReFa BRISTLE、ReFa LOCK TREATMENTのオンライン新商品発表会には、約15,000店舗を保有するサロンにご参加頂き、3名のトップスタイリスト様の実演による説明が大変ご好評を頂きました。

例年の年末商戦に向けたヘアケアアイテムのサロン市場先行販売は業界でも評判となっており、数多くの紹介が入り直近3ヶ月の新規契約サロン数は2,420店舗と、前連結会計年度の店舗増加数の約2倍となりました。

「ReFaルーム」も堅調に推移し、単品設置を含む設備設置ホテル数累計は1,500施設、総導入室数は21,900室となり、9月の月間体感者数は45万人を超えております。ReFaブランドのリピート商品の導入も進んでおり、11月発売のReFa BEAUTECH SHAMPOO、ReFa BEAUTECH TREATMENTは、そのデザイン性、機能性の高さから多数の設置に関するご要望を頂いております。

③リテールストア事業

主な事業内容は、量販店・専門店・百貨店・免税店・ショッピングセンターを中心とした運営事業者への卸売販売及び当社運営の小売店舗での対面販売を通じた一般消費者への直接販売となります。

当連結会計年度の売上高は14,665百万円（前期比32.3%増）、経常利益は1,488百万円（前期比98.0%増）となりました。

2023年5月8日から新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の5類移行により人々の行動が益々活発になり、夏季休暇も重なったため店頭集客も大変賑わいを見せ、それに伴い売上も好調に推移いたしました。

ReFaブランドでは、ReFa BEAUTECHシリーズのヘアケア商品や付随するリピート商品及び、ReFa FINE BUBBLE

PURE等を軸に引き続き売上が好調に推移いたしました。また、ReFaブランドから新たにReFa BEAUTECH DRYER SMARTピンクカラー、ReFa ION CARE BRUSH PREMIUMが新商品として店頭を導入され、新たなお客様層の獲得に大きく寄与いたしました。

SIXPADブランドでは、敬老の日キャンペーンを実施し、SIXPAD Foot Fitを中心に販売が伸びました。

④グローバル事業

主な事業内容は、海外グループ会社ECサイト及び海外のインターネット通信販売事業者の運営するECサイトを通じた一般消費者への直接販売、並びに海外のインターネット通信販売事業者、海外の販売代理事業者、海外の美容専門店及び海外の百貨店運営事業者への卸売販売となります。

当連結会計年度の売上高は1,290百万円（前期比31.6%減）、経常損失は1,050百万円（前連結会計年度は604百万円の経常損失）となりました。

中国においては、Styleブランドにて会員制ホールセールクラブのポップアップストアの展開に伴い、Style StandardやStyle Natural等の販売が好調に推移いたしました。しかし、2023年8月下旬よりALPS処理水問題の影響を受け、オンラインでのKOLライブ販売が中止となり、予定した売上が減少する事となりました。韓国においては、ReFa HEART BRUSHの販売を開始し、韓国ビューティーチェーンショップ1,300店舗での展開をスタートいたしました。K-POPグループを起用し積極的なマーケティングも実施しており、今後グローバルでの販売を加速してまいります。

一方、中国市場において引き続き在庫適正化を進めたことが主な減益の要因となっております。

⑤スマートリング事業

主な事業内容は、ショッピングや飲食時の決済を可能とする、非接触式のスマートリング（近距離無線通信を搭載した指輪）の製造販売を行うIoT事業となります。

当連結会計年度の売上高は197百万円（前期比5.8%増）、経常損失は1,009百万円（前連結会計年度は1,224百万円の経常損失）となりました。

Amazonプライムデーでのキャンペーンやカラーリングの発売、新たにスマートロック（セサミロック）との連携を発表する等、拡大施策を継続して実施し、販売数量の増加を図りました。一方、認知拡大のためのプロモーション費用や固定費を賄うだけの販売量に達しておらず経常損失を計上しております。

⑥その他事業

主な事業内容は、EV車両を中心とした自動車販売となります。

当連結会計年度の売上高は1,581百万円（前期比20.6%増）、経常損失は95百万円（前連結会計年度は58百万円の経常損失）となりました。

これらのセグメントで取り扱っている主なブランド及び商品は、次のとおりであります。

(ReFaブランド)

<FINE BUBBLE SHOWER>

バスタイムを美容タイムへと変えるReFaのビューティーシャワーシリーズの最新モデル、ReFa FINE BUBBLE PUREに、お客様の声から生まれた新色ブラックを追加いたしました。2023年7月10日からオンラインショップにて先行販売を開始しております。7月31日からは、バスルームをより洗練された空間へと変えるシャワーホース、ReFa SHOWER HOSEもブラックとシルバーの2色展開で販売開始しております。シャワーヘッドやバスルームに合わせてお気に入りのカラーを選ぶ楽しみを、使う楽しみとともに提供しております。発売以降も好評が続くReFa FINE BUBBLE PUREにおいては、引き続き「浴びるだけで10秒エステ」をコンセプトにしたTVCMを、主に関東を中心に全国放映の強化を行いました。CM放映と合わせて、「お悩みを解決する」WEBプロモーションもさらに強化し、元々シャワーヘッドの交換に積極的なお客様だけではなく、シャワーヘッドの交換未検討のお客様にも認知度を広げることで、市場のスケール拡大にリーダーシップを持ってけん引しております。また、ファインバブルの汚れ落ち効果や快適な浴び心地を体験できる場所として、温浴施設やホテルでの導入も大変好調に推移しており、ブランドの接点強化や話題創出にも繋げ続けております。

<HAIR CARE>

サロンクオリティの仕上がりとし速乾性をご自宅でも実感頂くために、コンパクトなデザインと使いやすさを追求した大人気のドライヤーシリーズ最新モデル、ReFa BEAUTECH DRYER SMARTに、お客様の声から生まれた新色ピンクを追加いたしました。2023年8月23日より全国的美容室サロンにて先行販売を開始しております。ヘアケアやスタイリングの満足感はもちろん、お気に入りのカラーを選ぶ楽しみ、使う楽しみを幅広く広げております。ReFa BEAUTECH DRYER SMARTの販売を引き続き強化するため、朝の情報番組等、世帯視聴率が高い番組を中心にTVCMを放映いたしました。また、人気美容誌arの「HAIR CARE総選挙 2023」ドライヤー部門で、ReFa BEAUTECH DRYER SMARTが1位、スカルプブラシ部門でReFa HEART BRUSH for SCALPが2位に輝く等好評を得ており、WWD BEAUTY 2023「ヘアサロン版ベストコスメ」でも、ReFa BEAUTECH DRYER PROが美容機器部門で1位、ReFa BEAUTECH FINGER IRONも同じく美容機器部門で2位を受賞する等、ReFaのヘアケアアイテムが話題を独占しております。2023年3月末にシリーズ累計出荷数100万本を突破し、楽天のブラシ・くしランキングで19週連続1位を獲得する等、幅広い世代のお客様から高評価を得ているReFa HEART BRUSHは、家族や友人へのギフトとしてプレゼントしたいという声も多いため、お客様からのご要望にお応えして、ReFa HEART BRUSHのシリーズ定番カラー6色をリッチなボックスにセットしたReFa HEART BRUSH COLLECTIONを、2023年8月10日（ハートの日）に合わせてオンラインショップや全国百貨店等で販売開始いたしました。ローズゴールド、シャインレッド、オーロラホワイト、シャンパンゴールド、シルバー、マットホワイトの計6色のブラシが描くカラフルな花に、贈る人の“ハート”を込めて、大切な人たちへのギフトに最適な一品となっております。

<BEAUTY TECH>

最速0.2秒間隔の高速照射で全身のムダ毛にアプローチする家庭用光美容器ReFa EPI GOの販売強化を引き続き行いました。ReFa公式InstagramにてEPIマガジン（ムダ毛ケアの基礎知識や商品情報をQ&A形式で紹介するコンテンツ）のストーリー配信や、光美容器の需要が高まる夏場までに、タレントのインタビュー投稿等を含むSEO記事40本を連続公開する等、ReFaのムダ毛ケアの認知促進に努めました。

<SHAMPOO/TREATMENT/その他リピート商品>

WWD BEAUTY 2023「ヘアサロン版ベストコスメ」でReFa LOCK OILがヘアオイル部門で1位を受賞いたしました。また、毎日の入浴時間を至福のリラックスタイムに変える、薬用入浴剤ReFa SPA TABLETが2023年9月20日に全国的美容室サロンを中心に販売開始いたしました。お湯に溶けた重炭酸イオンが温浴効果を高めることにより、芯から全身を温め、美の大敵となる冷えや日々の疲労にアプローチいたします。内側から美しさを引き出し、いきいきした毎日へ導きます。

ReFaはこれからも、美容機器とコスメの両軸から様々な美容アプローチの幅を拡げ続け、お客様のVITAL BEAUTYを実現してまいります。

(SIXPADブランド)

<SPORTS>

2023年7月にブランドパートナーのクリスティアーノ・ロナウド選手が来日し、大阪で「SIXPAD新商品発売記念クリスティアーノ・ロナウド選手来日イベント」を実施いたしました。ジェルシートがいらずに手軽に体幹を鍛えることができるSIXPAD Powersuit Core Belt HOME GYM対応モデルを改めてご紹介するとともに、ロナウド選手に

は商品の訴求である「体幹」の重要性等について語って頂きました。イベントの様子はTVやWEBを中心に多くの媒体で掲載され、認知拡大へと繋がりました。ロナウド選手来日中には、ロナウド選手の直筆サイン入りグッズが当たるキャンペーンも期間限定で実施する等、販売促進を図りました。

<HEALTH CARE>

再生医療関連事業のセルソース株式会社と事業拡大並びに協業による新規事業の創出を目指し、協業に合意いたしました。ひざに繋がる太ももの筋肉を鍛えるサポーター形状のSIXPAD Knee Fitをセルソース株式会社の提携医療機関に提供し、患者様の自宅でのリハビリとしての活用を目指してまいります。

敬老の日に向けて、足裏から足をトレーニングするSIXPAD Foot Fitシリーズのキャンペーンを実施いたしました。キャンペーン期間中はTV、新聞、WEB、SNSでプロモーションを展開し売上増加に貢献いたしました。

<Recovery>

リカバリーシリーズからは、筋肉のこりをほぐして疲労を取るSIXPAD Conditioning Roller、着て寝るだけで疲労を回復するSIXPAD Recovery Wear Sleep、スリムボディに振動機能を搭載し全身の気になる部位をピンポイントにケアできるSIXPAD Power Gun Slimを発売いたしました。SIXPAD Recovery Wear Sleepは2022年10月に新設された一般医療機器「家庭用遠赤外線血行促進用衣」の基準を満たしており、血行を促進し疲労を回復させます。

今後も筋肉のトレーニングやケアをする商品を開発し、お客様の健康をサポートしてまいります。

(Styleブランド)

2023年7月26日より、健康チェアシリーズ第2弾となる在宅ワークやオフィスでも使用できるキャスタータイプ2機種、Style Chair SMCとStyle Chair PMCの販売を開始いたしました。健康チェアシリーズはダイニングや在宅ワーク、学習デスク等、自宅利用を中心に幅広いシーンで使用されてまいりました。その中でよりビジネスシーンで使用しやすいキャスター、高さ調整、座面の回転機能に対するご要望を頂いており、このたびお客様のご要望にお応えする形で新商品を投入いたしました。1日当たりの日本人の座り時間は約7時間に及び、世界第1位と言われております。長時間の着座では腰部に対する負荷が大きく、腰痛の原因の一種とも言われております。健康チェアは着座時の腰の負担を軽減することができ、長時間のご利用でも安心して使用することが可能です。Styleショップ並びにオンラインショップを中心に在宅ワークの需要を取り込むことができ、好調な滑り出しとなっております。今後は最大需要となるオフィス市場へ展開し、健康経営や社員の福利厚生を推進している企業様への導入を加速してまいります。

健康チェアと同様に高単価商品の販売が好調に推移しており、シートタイプのプレミアムモデルStyle PREMIUMがEC、整体整骨院及び薬局市場で販売が好調に推移しております。導入店舗数の拡大ができたことで、お客様が商品を体感できる場所と専門家からの説明を聞く機会が増えたことにより、納得して購入頂いております。引き続き店舗数を増やし、売上向上に努めてまいります。

また、海外市場においても積極的な販売を行いました。中国市場では大手ホールセール企業との協業により、販売を強化いたしました。韓国、台湾、香港では引き続き代理店による直営ショップの販売が堅調に推移しております。

S字姿勢に導く独自形状がStyleの最大特長となります。姿勢に悩み苦しむ方は世界共通であることから、Styleは国内のみならず、世界で通用する商品を引き続き開発してまいります。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は60,154百万円（前期比22.8%増）となりました。また、営業利益は3,597百万円（前期比11.1%増）、経常利益は4,168百万円（前期比11.9%増）となりました。なお、2023年11月2日に当社HPにて公表しましたReFa BEAUTECH DRYERの無償交換に係る費用990百万円を特別損失に計上したこと等から、親会社株主に帰属する当期純利益は1,984百万円（前期比26.1%減）となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

(資産)

当連結会計年度末の資産につきましては、54,449百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,507百万円増加しました。これは主に受取手形及び売掛金の増加1,178百万円、商品及び製品の増加956百万円、原材料及び貯蔵品の減少670百万円、前払費用の増加558百万円、投資有価証券の増加972百万円及び繰延税金資産の増加641百万円によるものであります。

(負債)

当連結会計年度末の負債につきましては、11,737百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,080百万円増加しました。これは主に未払金の増加272百万円、未払法人税等の増加520百万円及び製品保証引当金の増加1,167百万円によるものであります。

(純資産)

当連結会計年度末の純資産につきましては、42,712百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,426百万円増加しました。これは主に親会社株主に帰属する当期純利益1,984百万円による利益剰余金の増加によるものであります。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末の現金及び現金同等物(以下「資金」という)につきましては、16,137百万円(前期比2.4%減)となりました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、獲得した資金は、2,686百万円(前期比43.0%増)となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益3,049百万円、売上債権の増加額1,287百万円及び法人税等の支払額1,481百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は、2,788百万円(前期比48.6%増)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出1,185百万円及び投資有価証券の取得による支出1,143百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、獲得した資金は、195百万円(前期比81.4%減)となりました。これは主に非支配株主からの払込みによる収入618百万円及び配当金の支払額393百万円によるものであります。

(4) 今後の見通し

翌連結会計年度(2024年9月期)は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の5類移行に伴い、経済活動の正常化が進み、景気は緩やかに回復すると思われる一方、金融政策を背景とした世界的な資源価格の高騰、急速な為替相場の変動や物価の上昇、また地政学的にも不安定な状況が続く等経済の先行きは依然として不透明な状況が想定されます。このような状況のもと、当社グループは事業環境の変化に対応し、更なる事業の拡大と業績向上に向けて、消費者ニーズに対応した新商品を創出するとともに、引き続き各チャネルにおける販売強化を行ってまいります。これらの状況を踏まえ、翌連結会計年度(2024年9月期)の連結業績予想につきましては、売上高67,000百万円(前期比11.4%増)、営業利益3,400百万円(前期比5.5%減)、経常利益3,400百万円(前期比18.4%減)、親会社に帰属する当期純利益2,000百万円(前期比0.8%増)を見込んでおります。

また、上記の業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、連結財務諸表の期間及び企業間の比較可能性を考慮し、当面は日本基準で連結財務諸表を作成する方針であります。なお、国際財務報告基準(IFRS)の適用につきましては、国内外の諸情勢を検討の上、適切に対応していく方針であります。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当連結会計年度 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,529	16,137
受取手形及び売掛金	4,838	6,017
商品及び製品	9,654	10,611
原材料及び貯蔵品	1,414	744
前払費用	436	995
その他	1,727	1,986
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	34,600	36,491
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,062	1,080
減価償却累計額	△772	△770
建物及び構築物 (純額)	289	309
機械装置及び運搬具	36	96
減価償却累計額	△35	△42
機械装置及び運搬具 (純額)	1	54
工具、器具及び備品	3,454	4,125
減価償却累計額	△3,057	△3,409
工具、器具及び備品 (純額)	397	715
土地	8,883	8,883
建設仮勘定	186	307
その他	97	167
減価償却累計額	△67	△102
その他 (純額)	30	65
有形固定資産合計	9,788	10,335
無形固定資産		
ソフトウェア	451	476
その他	24	154
無形固定資産合計	476	630
投資その他の資産		
投資有価証券	2,673	3,645
繰延税金資産	1,923	2,565
その他	592	932
貸倒引当金	△113	△151
投資その他の資産合計	5,076	6,991
固定資産合計	15,341	17,958
資産合計	49,942	54,449

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当連結会計年度 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,644	1,831
未払金	1,739	2,012
未払法人税等	964	1,485
賞与引当金	512	595
役員賞与引当金	1	71
製品保証引当金	450	1,618
株主優待引当金	156	211
火災損失引当金	—	124
その他	2,808	3,380
流動負債合計	8,279	11,330
固定負債		
その他	377	406
固定負債合計	377	406
負債合計	8,656	11,737
純資産の部		
株主資本		
資本金	16,772	16,778
資本剰余金	16,153	16,160
利益剰余金	9,116	10,706
自己株式	△904	△889
株主資本合計	41,137	42,756
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	54	△11
為替換算調整勘定	△346	△812
その他の包括利益累計額合計	△292	△824
新株予約権	3	0
非支配株主持分	436	779
純資産合計	41,285	42,712
負債純資産合計	49,942	54,449

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
(連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)	当連結会計年度 (自 2022年10月1日 至 2023年9月30日)
売上高	48,984	60,154
売上原価	17,552	23,295
売上総利益	31,431	36,859
販売費及び一般管理費	28,193	33,261
営業利益	3,238	3,597
営業外収益		
受取利息及び配当金	22	19
為替差益	599	555
受取損害賠償金	2	3
その他	69	47
営業外収益合計	693	626
営業外費用		
支払利息	0	0
コミットメントフィー	6	—
賃貸借契約解約損	96	12
固定資産除却損	35	11
株式交付費	17	—
支払補償費	—	11
チャージバック損失	7	9
その他	43	10
営業外費用合計	207	55
経常利益	3,724	4,168
特別利益		
固定資産売却益	—	11
投資有価証券売却益	4	—
新株予約権戻入益	—	3
受取保険金	263	—
受取解決金	—	163
受取損害賠償金	437	—
債務消滅益	326	—
特別利益合計	1,032	178
特別損失		
減損損失	294	1
投資有価証券評価損	25	89
和解金	272	—
貸倒引当金繰入額	80	40
製品保証引当金繰入額	—	990
リコール関連費用	149	13
火災損失	—	162
特別損失合計	821	1,297
税金等調整前当期純利益	3,935	3,049
法人税、住民税及び事業税	1,260	2,002
法人税等調整額	158	△661
法人税等合計	1,418	1,341
当期純利益	2,516	1,708
非支配株主に帰属する当期純損失 (△)	△168	△275
親会社株主に帰属する当期純利益	2,685	1,984

(連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)	当連結会計年度 (自 2022年10月1日 至 2023年9月30日)
当期純利益	2,516	1,708
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△129	△65
為替換算調整勘定	△221	△466
その他の包括利益合計	△351	△531
包括利益	2,165	1,176
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	2,334	1,452
非支配株主に係る包括利益	△168	△275

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)

(単位:百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	16,615	15,418	6,859	△904	37,989
会計方針の変更による累積的影響額			△38		△38
会計方針の変更を反映した当期首残高	16,615	15,418	6,821	△904	37,951
当期変動額					
新株の発行	156	156			312
剰余金の配当			△390		△390
親会社株主に帰属する当期純利益			2,685		2,685
自己株式の取得				△0	△0
資本移動に伴う持分の変動		578			578
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	156	734	2,294	△0	3,185
当期末残高	16,772	16,153	9,116	△904	41,137

	その他の包括利益累計額			新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	その他の 包括利益累計額 合計			
当期首残高	184	△125	59	3	102	38,154
会計方針の変更による累積的影響額						△38
会計方針の変更を反映した当期首残高	184	△125	59	3	102	38,116
当期変動額						
新株の発行						312
剰余金の配当						△390
親会社株主に帰属する当期純利益						2,685
自己株式の取得						△0
資本移動に伴う持分の変動						578
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△129	△221	△351	—	334	△16
当期変動額合計	△129	△221	△351	—	334	3,169
当期末残高	54	△346	△292	3	436	41,285

当連結会計年度 (自 2022年10月1日 至 2023年9月30日)

(単位:百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	16,772	16,153	9,116	△904	41,137
当期変動額					
新株の発行	6	6			13
剰余金の配当			△393		△393
親会社株主に帰属する当期純利益			1,984		1,984
自己株式の取得				△0	△0
自己株式の処分		0		15	15
資本移動に伴う持分の変動		0			0
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)					
当期変動額合計	6	7	1,590	15	1,619
当期末残高	16,778	16,160	10,706	△889	42,756

	その他の包括利益累計額			新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	その他の 包括利益累計額 合計			
当期首残高	54	△346	△292	3	436	41,285
当期変動額						
新株の発行						13
剰余金の配当						△393
親会社株主に帰属する当期純利益						1,984
自己株式の取得						△0
自己株式の処分						15
資本移動に伴う持分の変動						0
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	△65	△466	△531	△3	342	△192
当期変動額合計	△65	△466	△531	△3	342	1,426
当期末残高	△11	△812	△824	0	779	42,712

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)	当連結会計年度 (自 2022年10月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	3,935	3,049
減価償却費	552	796
減損損失	294	1
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△30	82
火災損失引当金の増減額 (△は減少)	—	124
製品保証引当金の増減額 (△は減少)	367	1,167
為替差損益 (△は益)	△28	△6
受取保険金	△263	—
受取損害賠償金	△437	—
和解金	272	—
火災損失	—	38
投資有価証券評価損益 (△は益)	26	93
売上債権の増減額 (△は増加)	△735	△1,287
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△1,212	△323
仕入債務の増減額 (△は減少)	360	135
未払金の増減額 (△は減少)	△721	266
その他	51	10
小計	2,432	4,148
利息及び配当金の受取額	23	19
利息の支払額	△14	△0
保険金の受取額	263	—
賠償金の受取額	356	—
和解金の支払額	△272	—
法人税等の支払額	△910	△1,481
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,879	2,686
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△564	△1,185
無形固定資産の取得による支出	△441	△264
投資有価証券の取得による支出	△903	△1,143
投資有価証券の売却による収入	49	—
子会社株式の取得による支出	△110	—
その他	93	△195
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,876	△2,788
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△15	△17
株式の発行による収入	312	13
非支配株主からの払込みによる収入	1,175	618
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△389	△393
その他	△29	△26
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,052	195
現金及び現金同等物に係る換算差額	△177	△484
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	877	△391
現金及び現金同等物の期首残高	15,651	16,529
現金及び現金同等物の期末残高	16,529	16,137

（5）連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報）

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものがあります。

当社グループは、販売チャネルを基礎としたセグメントから構成されており、「ダイレクトマーケティング事業」、「プロフェッショナル事業」、「リテールストア事業」、「グローバル事業」、「スマートリング事業」、「その他事業」の6つに分類しております。

（報告セグメントの変更）

経営上の意思決定を行う区分を基礎とするマネジメント・アプローチをさらに徹底するため、当連結会計年度より、従来「スポーツジム事業」に含まれていたHOME GYM事業の売上高を販売チャネル別のセグメント分類に変更し、「プロフェッショナル事業」及び「リテールストア事業」の区分に変更しております。

当該変更に伴い、「スポーツジム事業」の量的な重要性が低下したことから、「その他事業」の区分に変更しております。

なお、このセグメント変更に伴い、前連結会計年度のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分により組替えて表示しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表を作成するために採用される会計方針に準拠した方法であります。

報告セグメントの利益又は損失は、経常利益又は経常損失であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報
前連結会計年度(自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント							調整額 (注) 2	連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	ダイレクト マーケティング事業	プロフェッ ショナル 事業	リテール ストア事業	グローバル 事業	スマート リング事業	その他事業 (注) 1	計		
売上高									
外部顧客への売上高	22,846	11,666	11,086	1,887	186	1,311	48,984	—	48,984
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	22,846	11,666	11,086	1,887	186	1,311	48,984	—	48,984
セグメント利益又は損失(△)	6,089	1,889	751	△604	△1,224	△58	6,842	△3,118	3,724
その他の項目									
減価償却費	117	112	176	46	41	15	510	42	552

- (注) 1. 「その他事業」は、EV車両を中心とした自動車販売、SIXPAD STATION事業及びSIXPAD HOME GYM事業となります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△3,118百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△3,118百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。
4. 当社グループは、報告セグメントに資産を配分していないため、「セグメント資産」及び「有形固定資産及び無形固定資産の増加額」の記載を省略しております。
但し、関連する費用については合理的な基準に基づき、各報告セグメントに配分しております。

当連結会計年度(自 2022年10月1日 至 2023年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント							調整額 (注) 2	連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	ダイレクト マーケティング事業	プロフェッ ショナル 事業	リテール ストア事業	グローバル 事業	スマート リング事業	その他事業 (注) 1	計		
売上高									
外部顧客への売上高	26,997	15,421	14,665	1,290	197	1,581	60,154	—	60,154
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	26,997	15,421	14,665	1,290	197	1,581	60,154	—	60,154
セグメント利益又は損失(△)	7,184	1,682	1,488	△1,050	△1,009	△95	8,200	△4,032	4,168
その他の項目									
減価償却費	192	123	284	43	41	14	700	96	796

- (注) 1. 「その他事業」は、EV車両を中心とした自動車販売、SIXPAD STATION事業及びSIXPAD HOME GYM事業となります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△4,032百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△4,032百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。
4. 当社グループは、報告セグメントに資産を配分していないため、「セグメント資産」及び「有形固定資産及び無形固定資産の増加額」の記載を省略しております。
但し、関連する費用については合理的な基準に基づき、各報告セグメントに配分しております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)	当連結会計年度 (自 2022年10月1日 至 2023年9月30日)
1株当たり純資産額	1,036.89円	1,063.78円
1株当たり当期純利益	68.50円	50.35円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	68.22円	50.13円

(注) 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)	当連結会計年度 (自 2022年10月1日 至 2023年9月30日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	2,685	1,984
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	2,685	1,984
普通株式の期中平均株式数 (株)	39,204,313	39,406,151
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額 (百万円)	—	—
普通株式増加数 (株)	163,906	174,758
(うち新株予約権 (株))	(163,906)	(174,758)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整 後1株当たり当期純利益の算定に含めなか った潜在株式の概要	第6回新株予約権 新株予約権の数 200個 (普通株式 2,400株) 第7回新株予約権 新株予約権の数 32,000個 (普通株式 384,000株) 第8回新株予約権 新株予約権の数 5,440個 (普通株式 65,280株) 第9回新株予約権 新株予約権の数 30個 (普通株式 3,000株)	第6回新株予約権 新株予約権の数 200個 (普通株式 2,400株) 第8回新株予約権 新株予約権の数 5,325個 (普通株式 63,900株) 第9回新株予約権 新株予約権の数 30個 (普通株式 3,000株)

(重要な後発事象)

該当事項はありません。